



## サンタクロースは本当にいるのですか？

もうすぐクリスマス。すっかり日本にも定着した行事であるが、サンタクロース関連で有名な話があるので（知っている人もいるかも知れないが）紹介してみよう。

＊

今から百年以上前、ニューヨークに住んでいた8歳のヴァージニア・オハンロンは、学校で「サンタクロースはいる、いない」ということで友達と口論になり、家に帰ってから父親に尋ねてみた。父親は「サン新聞に問い合わせてもらえ」と勧め、彼女は「サンタクロースっているんでしょうか？」という旨の質問をサン新聞に送った。

これに対し、当時記者だったフランシス・P・チャーチは、「Yes, Virginia, there is a Santa Claus」という社説（1987年9月21日）を書くのだが、その暖かい内容が評判を呼び、世界的に有名になったというのである。

さて、では君たちは、8歳の子どもから「サンタクロースはいるの？」と聞かれたら何と答えるのだろうか？ 夢をこわさず、かといって誤魔化すのでもなく、8歳の子どもを納得させることができるだろうか？

君たち自身も、いつか父親となり母親となって、自分の子どもから同じ質問を受けることだってあるかも知れない。そんな時、君たちは自分の子どもに何と語りかけるのだろうか？ それはとても大切な瞬間なのではないだろうか？

＊

サン社の社説でチャーチはこう述べている。

一部分を引用してみよう。（裏に英文で全文を掲示）

サンタさんを信じない！ それは、妖精だって信じない、と言ってるのも同じです。クリスマス・イヴにサンタさんが煙突から降りてくるところを見たいなら、パパにお願いして、煙突という煙突に見張を置くことも出来るでしょう。でも、たとえサンタさんが降りてくるのを目撃出来なくても、それが何の証拠になるのでしょうか。だれもサンタさんを見ていないからと言って、それがサンタさんがいない証しになると言うのでしょうか。

この世で最もたしかかな真実は、子供も大人も目にする事が出来ないものです。あなたはこれまでに妖精たちが草原でダンスを踊っているのを見たことがありますか。もちろんないと思います。けれど、だから妖精など存在しない、と言えるのでしょうか。この世界に、姿がなく見ることが出来ない不思議なものを、すべて思い付いたり勝手にでっちあげたり出来る人間などいないはずですよ。

赤ちゃんのガラガラを分解して、どんな仕組みで音が鳴っているか、中身を調べてみることは出来るでしょう。しかし、目に見えない世界を蔽っているヴェールは、一番の力持ちでも、たとえこれまで存在したあらゆる力持ちが集まっても引き裂くことは出来ません。信仰と、詩と、愛情と、ロマンスだけが、そのカーテンを開き、その向うにある、言葉に出来ないほど美しく素晴らしいものをかいま見せ、その姿を描き出してくれるのです。